

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、イノベーションのリーダーとしての専門的能力と、俯瞰力やマネジメン
ト力など広範で多面的な能力を備えたイノベーション
博士人材の育成です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのよ
うな課題があるのでしょうか。

日本はこの20年余の間、経済のみならず多くの
分野で活力をなくしており、復活・再生が強く
望まれています。地域の再生ひいては日本の再生
には、地域社会の課題解決に挑戦し、イノベーショ
ンを主導できる博士レベルの高度人材の育成が必
要不可欠かつ喫緊の課題です。

―なぜこの6大学で連携することになったのです
か。

本連携取組の6大学は、その地域独自の特色あ
る教育研究機能を有しており、地域の文化や伝統
産業などの地域リソースを戦略的に活用し、各地
域の強みを全国的規模で連携・融合させることで
シナジー効果を生み、地域の活性化を促すことが
できます。また産学官協働による教育プログラム
を企画・運営することで社会の様々な分野で活躍
できる博士の育成が可能になります。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立
てていますか。

取組の目的達成に向け二つの計画を立てていま
す。第一は、地域の課題解決と人材育成をセット
で実施する産学官連携地域コアを設立した上で、
これら6地域コアが全国的に連携してシナジー効
果を発揮できるネットワーク体制を整備し、その
試行を通して効果を実証します。第二は、産学官
の共同出資等によってスーパード連携大学院を名実
ともに産学官連携による教育研究組織の新しいモ
デルとすべく制度設計と設立準備を行います。

―この事業に採択されたことで、新たにどのよう
なことができるようになりますか。

これまで、地域の活性化はその地域で解決し
ようとし、効果に限界がありました。この取組で
は、新たに地域間のネットワークを活用し、新し
い知の融合とそれを担う高度人材の育成を有機的
に一体化し、各地域の特色を生かしつつ、全国同
時に地域を再生し、日本全体の再生に貢献します。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた
活動のレベルアップを図るものもあると思います
が、それはどのようなものですか。

本連携取組により、6大学で推進してきたスー
パード連携大学院のカリキュラムを拡充でき、遠隔
講義配信システムの能力を強化できるようになり
ます。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことが
できるのでしょうか。具体的な成果指標のイメー
ジはありますか。

本事業により以下の成果を目標としています。

- ・イノベーション博士人材の輩出（日本の再生、
地域の再生の核となり、アカデミア以外の分野で
活躍する人材、約10名/年）
- ・地域コアの全国ネットワーク化による地域の活
性化（6地域コアの設置、約15件/年の地域内共
同研究、約15件/年の地域間共同研究）

- ・継続して安定的なイノベーション博士育成が行
える体制の構築、そのための産学官協働大学院基
地の建設等の検討案を提示

ステークホルダーからのメッセージ

秋田県産業技術センター所長

齋藤 昭 則

地域の活性化を図る上で、地域経済の自立が必
要です。これには、そこでいきいき働く人材を増
やすことが不可欠です。そして、従来型の誘致企
業の生産拠点から開発型企业への転換と創出が必
要であり、このため、新しい着眼点を持つ人材の
育成が重要です。たとえば、ものづくりにエンジ
アリングとサイエンスを導入できる人、感動や共
感を産む文化を付加できる人、複雑に絡みあった
課題を解きほぐすことができる人、などです。そ
れには、今までの専門課程を修めただけではなく、
複雑な課題に果敢に挑戦できる人材の養成所が必
要です。本スーパード連携大学院がそれを担うこと
で、こうした人材が育ち、イノベーションが地方
から進展できるものと期待します。

